

地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (5) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (6) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

20

技術課長 御請願 受下

外から見た製鉄所

一、製鉄所の特色

外から見た製鉄所 — 製鉄所とは物と人との結合的予有
操作 — 従業員から見た所 — 自分は何かの段かとの目向
— 何処へ行く — 川の畔

二、製鉄所の特色

製鉄所の特色 — 製鉄事業の特色

一、比較的値段の低いものを大量に造る

二、最後の製品に對して大の原料及燃料を要す

三、高熱作業

四、大なる振動作業

五、此等には技術的

六、技術の総合的事業

製鉄所

(一) 鉄使用の発達

石炭時代、青銅時代、鉄時代

武器、日用品、交通機関、生産設備

利用の増加、理由、二、三、四、五、六、七、八、九、十

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

利用の将来

(二) 製鉄所の成長及その地位

一、鉄

二、鋼

三、鉄鋼

四、鉄鋼

五、鉄鋼

2.

製鉄所 (昭和四年)

一、製鉄所 一〇〇〇万

二、民間製鉄所

三、輸入量 一〇〇万

(四) 製鉄所の生産

日清戦争後の生産 九〇〇万

昭和十一年 一三〇万

戦後の経路

一、設備

二、技術

三、経営

一、技術修得の化、製鉄所が主たる役割を担う

二、経営

三、合理的経営、健全な経営、自力更生

こゝいものさあし道。

口製子

- 1. 軍器目標物化
- 2. 市場子、

(五)

鉄(鋼)の口としての日本

1. 現状 (表参照)

2. 将来の展望

3. 文化の象徴

(六)

製鉄口としての日本

1. 各口との比較

2. 将来は如何

3. 精密工業

製鉄月

(七)

製鉄原料としての

一、鉄鉱

二、石灰

三、燐酸

四、耐火材料

五、屑鉄

(八)

製鉄作業の系統

鉄鋼一貫工

1. 製鉄

2. 製鋼

3. 圧延

二、鉄鋼一貫の得失

(九)

製鉄作業系統に於ける製鉄所の特色

1. 製鉄所 - 原料の問題

製鉄月

③ 仕事は4ラあり slow but steady
 ④ 連続的作業 連絡関係

2. 各職別的

鑄鉄炉 作業帯に順調な
 製鋼 製鋼の均等な
 石延 能力を協働する
 修理、公署

製鋼の熱処理 技術不足分
 製鉄期日の内題
 科学的な管理法 Scientific management
 ② 欧米各工製鉄の比較
 米 大量生産 集中生産 自然充足
 独 中庸規模 聯合生産 創作 新
 英 技術地位 子位地位 特微地位

(1) 製鋼 - 鉄鉄石場
 八 石延 - 成品の種類多
 製鉄所作業附属作業
 将来は如何 (従来の経路) 外との比較
 技術の内題
 1. 技術の地位
 2. 専断か均等か 各人のコウクか
 3. 技術の進歩
 4. 模倣時代
 5. 創作時代 (国民的創作の時代)
 八 製鉄所に於ける技術上の内題
 甲 一般的に
 ① 人数多し 能力の内題
 ② 大修理多し 操縦と人

